

# 10年を振り返って

大台町長 尾上武義



平成18年1月10日に旧大台町と旧宮川村が合併し、新大台町が誕生しました。新たな時代の一步を踏み出してから、このたび10周年を迎えました。記念すべきこの節目を迎えることができたのは、ひとえに町政運営に深いご理解とご協力をいただいている町民の皆様をはじめ、関係各位のご支援の賜物であると感じ、感謝を申し上げます。



さて、この10年を振り返ってみますと、まず最初に町民の皆様113名に参画いただき町政運営の指針となる総合計画の策定に取り組み、平成19年6月に「自然と人びとが幸せに暮らすまち」を町の将来像に掲げた第1次大台町総合計画を策定いたしました。この計画に基づき、町の

一体感の醸成と各地域の特色を活かしたまちづくりを進めてまいりました。

合併当初は課題が山積していましたが、まずは旧町村の交通の利便性など地域間格差の解消に率先して取り組みました。

その他、この10年間の主な事業では、美しい森林を守り「清流日本一の宮川」を保全するため、環境省の認証を受けたJ・V・E・R制度によるオフセット・クレジットの販売収益を活用して森林整備を進めるとともに、積年の課題でありました大台地域の簡易水道を統合整備し、安全で安定した水道水の供給に取り組みました。

## 紀勢自動車



道が県南部へ延伸することにより、町が単なる通過点となり入込客が減少してしまうことに対応するため、大紀町と連携して第3セクターによる会社を設立し、奥伊勢PAの営業施設の運営に参画いたしました。現在では高速道路利用者を県南部地域へ誘導する情報発信施設としての役割を果たしています。



平成27年4月に報徳診療所に介護老人保健施設みやがわ、そして大台厚生新病院がオープンいたしました。

大台厚生病院との連携・再編による報徳病院の診療所化と介護老人保健施設併設の宮川メディカルセンター構想には、1600人余りの皆様の再検討を求める署名があり、地域の意見として重く受け止めました。しかし、高齢化が進む宮川地域の将来的な医療体制を確保するには、医療と介護を確保していくことが必要であり、宮川メディカルセンター構想の実行を決断いたしました。この構想は、将来の町民の皆様の安心・安全を確保するための最善の施策であると確信しております。

昭和24年に開校した協和中学校が、平成27年3月をもって閉校となり、大台中学校へ統合いたしました。協和中学校の統合については30年ほど前から進めてまいりましたが、地元からの存続を希望する声が強く、これまで統合には至りませんでした。しかし近年の少子化による生徒数の減少等により、統合への理解をいた

だき、子供たちは新しい中学校で、より多くの生徒と新たな一步を踏み出しました。

本町は急峻な山々に囲まれており、豪雨による土砂災害の発生が危惧されます。平成23年9月には台風12号の豪雨により岩井地内の持山谷で土石流が発生し、下流の橋梁が落橋、民家1棟が倒壊するなどの被害をもたらしました。年間を通じて雨量の多い地域であり、特に防災対策には全力で取り組んできたところで、宮川に堆積した土砂の撤去、防災行政無線の戸別受信機の全戸設置、ハザードマップの作成、防災訓練など、町民の皆さんや関係機関と連携して安全・安心なまちづくりを進めてまいりました。



そのほかにも三瀬谷小学校体育館・日進公民館の整備などのハード事業に取り組むとともに、地域の活性化と集落対策を図るため、空き家バンク制度を創設し、集落の活力と移住・定住につなげるなどのソフト事業も進めてまいりました。子育て環境では、三瀬谷地区統合保育園